



NPO 法人流山市国際交流協会

NAGAREYAMA INTERNATIONAL FRIENDSHIP ASSOCIATION

NIFANEWS

発行: NPO 法人 流山市国際交流協会
〒270-0111 流山市江戸川台東 1-4 3F
国際理解サポートセンター内
☎: 04-7128-6007 (月・水・金)
Email: nifa-support@bz04.plala.or.jp
http://nifa-home.sakura.ne.jp/

▶▶▶ このページは、やさしいにほんごをつかっています

やさしい
にほんご

戸外の開放感で「みんなともだち」になります



5月25日
須賀果樹園



全員集合で「ハイ、NIFA！」



おおたかの森で、多国の交流会が行われました。

おおたかの森は都市化が進んでいる街です。

須賀果樹園はこの街にあります、果物を作る農園です。

この果樹園に、美味しい『食べ物』や『飲み物』を楽しむために、たくさんの国の人たちが集まりました。

40人を超える人です、10人の子供・(幼児・児童・生徒)と大人です。

曇りの空の下で、資材倉庫の屋根の下に『テーブル・いす』が用意されました。

参加した人たちは、アメリカ、インド、インドネシア、ガーナ、台湾、バングラデシュ、香港、日本などの人々です。

テーブルは3〜5人が座りました。自分が座りたい好きなテーブルに座りました。

それぞれのテーブルをカメラのレンズで見ました。

いろいろな国の人が集まったテーブルは『国際的な街』のカフェのようです。

ホットドッグ・ソフトドリンクを食べて・飲んで、『おしゃべり』を楽しみました。

初めて会った人たちと、すぐに仲良くなりました。

この場所は上をみると、広い空、目の前は、たくさんの緑(果樹)があります。

この空間は心を休めることができる、素敵な場所のようです。

やさしいにほんご訳: 中野 明さん 外国語支援事業部



タブマネ (多文化共生マネージャー) は語る

キム スクハ がいこくご しえん じぎょうぶ
金 淑花さん (外国語支援事業部)



たが ちが し
互いの違いを知り、
みと あ う きょうりよく
認め合うところから生まれる協力



日本に来て30年もたつと、周りからは「もう日本人だね!」とよく言われます。そのたびに、「いやいや違います。いくら日本に住んでも日本人にはなれません。」の会話がが続いています。どれだけその土地に住んでいても、外国人として根から持っている習慣や価値観を変えることは、なかなか難しいことです。

しかも、日本の習慣やルールが分かっている、日本語の「空気を読む」ことはいまだに苦手です。その場で話される日本語の隠れた意味を、暗黙のうちにみんなと同じように理解することが難しいために、質問しただけでその場に混乱を招くことがあります。だから、できる限り、意見を言わずに静かにいます。目立たないようにします。これが日本でうまく過ごすコツで、美德のようにも思われます。でも「空気の読めない」外国人が、日本人から見て、常識に欠けると思われる言動をとっても、「ダメ」とか「イヤ」とか思わずに、説明してあげてほしいのです。それが外国人と仲良く付き合うコツだと思います。

なぜ、外国人との間でトラブルが起きるのか考えてみましょう。私たちの周りには、グローバル化が進むにつれ、移民や外国人労働者、留学生など、さまざまな文化背景を持つ人々が一つの地域に共に暮らすことが増えています。しかもやむを得ず、生活のためにその環境で生活せざるを得ない人もいます。中には言葉が通じず、日本とは文化や価値観・宗教・習慣などの違いにより、日本人を理解できない人も多くいて、生活するのが一苦勞になっています。この事情を理解せず、日本の常識と異なる行動をする人だと、相手を排除するとトラブルになったりします。

例えば、皆さんはゴミの分別はできていますか?新しく引っ越すたびに、その地域のゴミ出しのルールに慣れるのに長い時間が必要です。言葉が通じる日本人でさえ難しいことなのに、初めて日本での生活に直面する外国人にはハードルが高いものです。国や地域によって再利用可能・燃やすごみ・有害危険ごみなど、分け方はさまざま違います。ですから、意識の違いから間違いは生じるのです。これを理解してもらい、ゴミ出しがちゃんできるようにサポートする必要があるのです。そうしないと、ゴミの出し方で近所とのトラブルが起き、お互いに嫌な思いのまま過ごすことになるのです。

在住外国人は、日本社会の習慣や価値観を理解して、生活に慣れるよう努力も必要です。日本人と外国人と一緒に住むことは避けられないのであれば、お互いに気持ちよく過ごせるよう、できるものは定式化するなど、日本の生活になじめる環境作りをして、共に社会を築いていかなければならないのです。



NIFAの人 お国柄から世界が見える

日本語講座事業部 中央公民館教室 担当部長

ば ば ひ さ こ
馬場尚子さん

Q. NIFAに入会されたのはいつごろ、どんな動機からですか？

A. 入会は7年前です。動機は、定年後を有意義に過ごしたいと考えていたころ、娘が無造作に置いた数枚のパンフレッ

トの中に、「日本語講師」を見つけました。実は、子どものころの夢が「先生」でした。それを見て、「外国の人に日本語を教える先生になりたい」と、柏にある学校に入学しました。

仕事をしながら通ったので2年かかりましたが、無事修了することができました。同じ学校に NIFA の日本語講座事業部の福嶋さんがいて、在学中から誘っていただき、卒業後に入会しました。

Q. 教えていて、どんなことが楽しいですか？

A. いろいろな国の方がいるから、お国柄もいろいろ。違いを否定せず、認めることで違った世界が見えてきます。また、日ごろ「何でも言ってね」と話してあるので、万国共通の人間関係の悩みを聞くこともあります。解決まではできなくても、吐き出せる場所になれたらと思っています。

Q. NIFA では小中学校でも日本語指導をしていますね。子ども相手の場合はいかがですか？

A. 子どもの場合はまず一緒に遊んで、仲よくなることから始めます。「間違い探し」をしながら、「この色は白、これは青」と教えたり、体の部位(目、口など)の絵を描くなど、緊張しないように心がけています。

Q. 外国への関心は以前からありましたか？

A. 若いころはアメリカ留学にあこがれていましたが、今のように簡単ではありませんでした。英語には触れていたくて、商社に就職し、海外営業部で働

きました。子育てで退社しましたが、次女が英語を好きになり、自分の夢に重ねて応援しました。カナダに留学したときには、遊びに行きました。

Q. 柏の国際交流協会にも入っていらっしゃいますね。

A. はい。先月、そこで留学生から聞いたんですが、意外と日本人と友だちになれないと。今は何でもアプリでできてしまうので、かえってコミュニケーション不足になるようです。

Q. NIFAでも、若い留学生たちの交流の場を作ってあげられるといいですね。NIFAの日本語講座ではどんなことを感じられますか？

A. 子育て中の方もいらっしゃいますが、例えば学校の欠席連絡も最近はスマホでするので、便利な反面、直接のふれあいが減ってしまうようです。

Q. 今年度から、中央公民館教室の担当部長になられましたね。最近の傾向はいかがですか？

A. この春は新しい受講生が多かったですね。基本は1対1で指導していますが、今後希望者が増えたら、1対2とか3を考えざるを得なくなるかも。あるいは、柏の交流協会のように、レベル別のクラスにするという考え方もある。クラスを作ると、その中で友だちができるという学生側のメリットがあります。ただ、その場合、教室の場の確保という難しい問題が出てきます。

Q. 日本語講師として、印象に残るエピソードは何かありますか？

A. 教えている子の担任の先生から、「日本語の教室に行くのがすごく楽しみ」とその子が言っていると聞いたときは、とてもうれしかったです。

また、大人の受講生の家に呼ばれたことがあります。ある国の方ですが、日本人だったら家を片づけなければとか思うんですが、向こうの方はそういうのをあまり気にしない。まず来てくれることがうれしい、一緒にごはんを食べることが大切と考えるんですね。そういう交流が楽しいです。

Q. 部長の任期は2年間。頑張ってください。

A. はい、頑張ります。

聞き手:小谷良美 7月16日
CAFE&GALLERY ANTIGUAにて

My Memorable Home おしえて あなたの心のふるさと

日本の暮らしで得た目標

ナンシー大熊さん フィリピン出身（日本語講座事業部）

ナンシーさんが、流山で出会った二つの目標。それは、子どもたちに英語の楽しさを伝えること、そして自らも日本語を学ぶ続けること。異国の地で見つけた“心のふるさと”が、彼女の毎日を明るく照らしています。



Bicol(ビコール)
(A Mount Volcano)

こんにちは。
私は流山に住む ナンシーです。フィリピン人です。私は両親の故郷の自然豊かな”Bicol(ビコール)”で生まれ、Cubao Quezon City(コバオ ケソン市)”



コバオ ケソン市

で育ちました。”Cubao”はとても素敵な場所で、住むのは大変便利です。そして、学生時代の友達がたくさんいます。



スクール サイネージ

私には日本人の夫と2人の子供がいます。毎日楽しく幸せな生活を過ごしております。23年の日本の生活の中で 私には2つの大きな目標ができました。

一つ目は 子供たちに語学(英語)の楽しさと大切さを伝えたいということです。その2018年に会社を設立し、”Child Care(民間学童 Engaged)”と“英語スクール”の複合スクールを運営しています。スクールには流山のたくさんの子供達が元気いっぱい通っています。

二つ目は 日本語、特に漢字と文章の読み書きができるようになりたい、という目標です。そのために NIFAに参加させてもらい、先生方にたくさんのことを教えていただいています。心から感謝しております。これからも大好きな日本でたくさんの事にチャレンジしていきたいと思います。
(日本語指導・担当講師の井上洋子さん)



スクールプログラム

シリーズ NIFA の日本語講座 ② ～児童・生徒の学校生活を後押ししています～ 日本語講師の「学校派遣」授業

NIFA は、流山市教育委員会から委託されて、市立の小中学校で外国出身の児童・生徒に日本語の指導を行っています。2002年7月に西初石小学校でパーレー、ブラジル出身の児童に教えたのが始まりです。各学校は教育委員会を通じて日本語講師の派遣を要請し、講師が学校へ出かけて授業を行います。通称「学校派遣」と言っています。

授業は、読み書き、コミュニケーション能力の習得、自分の気持ちの表現、状況説明の表現などを中心に、1回2時間、20回が基本のカリキュラム。

最初は緊張気味の児童も次第に打ち解け、クラスでも普通にみんなと仲良く過ごせるようになる様子を見聞きすると、講師冥利に尽きるようです。

講師は、いずれも日本語講師養成学校や、認証機関で所定のコースを修了した方たち。現在10名少々の講師が、年間35名前後の児童・生徒に600回程度の授業を行っています。流山にも外国出身の児童・生徒がまだ増えそうです。私たちが支援する機会も増えそうです。



My Memorable Home

Two Goals in Japan

Ms. Nancy Okuma

The Philippines

Two goals found in Japan continue to support Nancy's heart—a story of her “spiritual hometown” in Nagareyama.



Hello,

My name is Nancy, and I live in Nagareyama city. I am from the Philippines. I was born in beautiful, nature-rich Bicol, where my parents are from, and I grew up in Cubao, Quezon City. Cubao is a wonderful and convenient place to live, and I have many friends from my school days there.

I came to Japan 23 years ago after getting married. Now, I live happily with my Japanese husband and our two children.

During my 23 years in Japan, I've found two big goals in my life.

First, I want to share how fun and important of learning English with children here in my hometown. To do this, I started a company in 2018 called “Engaged”, a combined after-school care program and English school. Many energetic children in Nagareyama come to our school every day.

Second, I want to improve my Japanese, especially reading and writing kanji and sentences. That's why I joined NIFA, where the teachers have been so kind and taught me many things. I'm very grateful.

I want to continue challenging myself and learning more in this country I love—Japan.



丹羽真弓(にわまゆみ)さん
外国語講座事業部

◇出身:
千葉県

◇趣味:
ものづくり



外国語講座で英会話を学び始めて1年たちました。

みなさまとの英語でのコミュニケーションは楽しく、英語の学びのみならず世界の文化を知ることができ、それも魅力的です。

山本ディランカ さん
文化講座事業部(ラテンダンス)

◇出身:スリランカ
◇好きな日本の食べ物:
寿司
◇嫌いな日本の食べ物:
納豆

◇セントラルパークフェスタのダンスは、(蘭)連記事は6ページに掲載)ビデオを見ながら練習しました。ステップを覚えるのは大変でしたが、綺麗に見えるようたくさん練習して頑張りました。右のQRからぜひご覧ください。

※今回のダンス映像は、使用曲が著作権の関係でYouTubeによりブロックされたため、ロイヤリティフリーの楽曲に差し替えています。多少の違和感がありますが、ご了承ください。

スリランカは
素敵な所なので
是非、訪れてみて下さい！



【訂正】6月1日発行のS/N236号の5ページで、来年の定時総会の開催日を4月28日(土)とお知らせしましたが、
正しくは4月25日(土)です。お詫びして訂正いたします。

「日本語講座中央公民館教室主催の「体験学習会」 6月25日

南京玉すだれ、ガマの油売り、尺八の演奏を楽しみました

「アさて アさて アさてさてさて さては南京玉すだれ」とか、「さあさあ お立ちあい、ご用とお急ぎでなかったら、ゆっくりと聞いておいで」といった口上を、皆さんは聞いたことがありますか？ 南京玉すだれは、江戸時代の初期から伝わる大道芸、「ガマの油売り」も同じころ、筑波山で作られた万能の軟膏「ガマの油」を売り出すための口上です。



演じてくださったのは北島健治さん、都内の日本語学校や東葛地区の国際交流協会で日本語講師をされる一方、南京玉すだれ、ガマの油売り等の伝統芸能を各地で披露されています。つくば市の「筑波山ガマ口上保存会」会員でもあります。

この日、いつもの教室は街路風に模様替え、みんなで北島さんを囲み、軽妙な口上に合わせ手拍子。小さなすだれをサッと伸ばしたり、丸めたり、ひねったりして釣りざおや橋、鳥居などを表現する技に歓声が湧きます。みんなも玉すだれに触ったり、試しに何かを作ったりしましたが、やはりコツがありそうです。

ガマの油売りは、口上に合わせて北島さんが絵を用意してくださり、内容がよくわかりました。実際に刀で腕に刀傷をつけてまで演じる迫力はすごいもので、これなら万能薬は売れるだろうと、見入っていました。

本日のトリは中央公民館教室講師の海老原晋一さんによる尺八の演奏。尺八普及の歴史、楽器の構造、吹き方の紹介の後、何曲か演奏していただきました。尺八は楽音を出すまでに「首振り 3年」と言われるほど演奏の難しい楽器。海老原さんは私たちになじみ深い、西洋音楽の「里の秋」や「もののけ姫」を演奏してくださいました。

この「体験学習会」には江戸川台教室の方も参加。外国出身の皆さんだけでなく、日本人にも珍しくなった伝統芸能、大道芸に触れた楽しいひとときでした。



「セントラルパークフェスタ 2025&感謝祭」に参加 6月8日

NIFA も多くの市民団体とともに、歌とダンスで楽しい舞台を作りました

梅雨入り間近、湿気のある曇天の下、生涯学習センターでさまざまな活動を行っている団体が、日ごろの活動を披露し、広く市民の人たちと交流する機会を持ちました。

NIFA は文化講座事業部が参加。「ワールドハーモニー」の皆さんは、「幸せなら手をたたこう」(注1)と「すべての山に登れ」(注2)を英語で演奏し、「ワールドダンス」の皆さんは講師のペドロ・モランテさんに、キレキレのサルサでステージを彩りました。どの団体も個性のあるステージを披露する中心にあって、文化講座の皆さんもなじみの歌と、ラテンの情熱的なリズムのユニークなステージで観客をひきつけていました。

また、各フロアでは子供向けの出展・出店が多く、どこも終日にぎわっていました。このフェスティバルは全て手作りで、ぬくもりや手ざわりのよさがあり、誰もが参加し、楽しめる空気があります。イベントと言えば文化講座、だけではなく、他の事業部も出展の可能性がありそうです。

(注1) 原題 “If You’re Happy and You Know It” (アメリカの童謡)

(注2) 原題 “Climb every mountain” (「サウンドオブミュージック」から)



編集後記

この夏の、異常ではなくなりつつある世界の異常気象、「日本人ファースト」などと言っている場合ではないかも。

